

予算総額は 35億488万円

疾病予防・早期発見・早期治療への取り組み等を推進していきます

健保を取り巻く状況

日本は、世界に類を見ないスピードで高齢化が進行しています。高齢者の医療費は社会全体で支えるという観点から、健保組合は「納付金」を拠出して、高齢者医療制度の財政を支えています。令和4年は人口のボリュームが多い団塊の世代が75歳（後期高齢者）になり始めるため、高齢者医療制度への納付金負担急増により、健保組合のさらなる財政悪化が懸念されています。さらに令和7年には団塊の世代がすべて75歳以上となり、健保組合にとって厳しい状況が続く見込みです。このままでは支える側である健保組合の財政が立ち行かなくなってしまう。

そこで現役世代の負担上昇を抑えながら、すべての世代が安心できる社会保障制度を構築するため、令和4年10月から75歳以上の後期高齢者の自己負担割合が一部見直され、「一定所得以上の方（単身世帯の場合、年収200万円以上）」を2割負担とすることとなりました。しかし、2割負担となる対象者数は限定的であり、十分な財政効果は期待できません。大切な健康保険制度を守るため、世代間の負担のアンバランスを是正することが喫緊の課題となっています。

令和3年度着地見通し

令和3年度総収入は予算額（3,023百万円）より4百万円少ない3,019百万円、総支出は予算額より1,396百万円少ない1,627百万円となる見込みです。

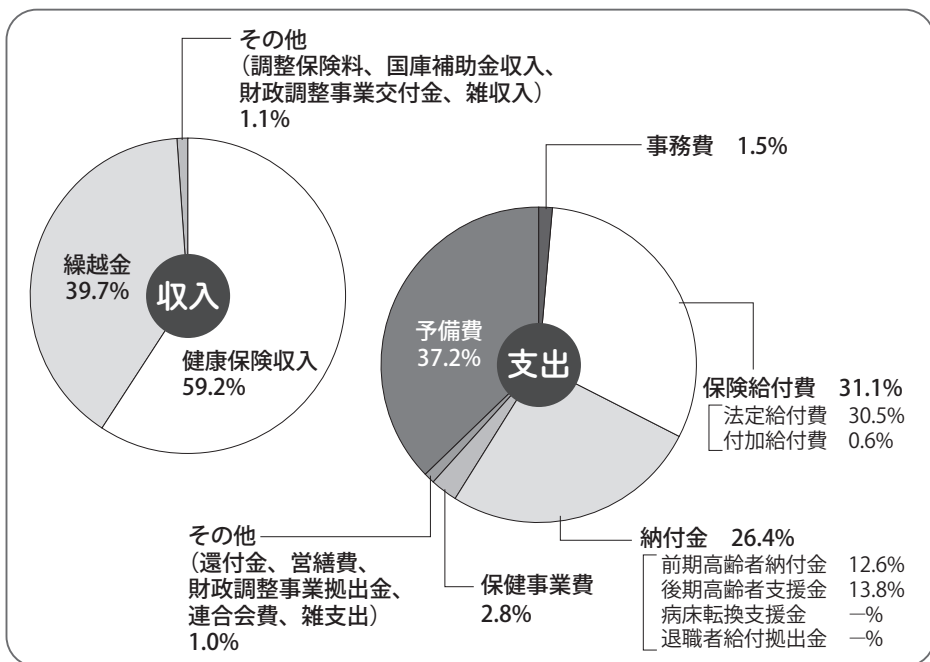
従って令和2年度からの繰越金1,185百万円よりも35百万円多い1,220百万円を令和4年度へ繰り越す予算としていましたが、さらに172百万円多い1,392百万円を繰り越せる見込みです。

令和4年度保険料率

保険料率は前年度と同率の9.4%で変更ありません。

令和4年度予算

令和3年度は被保険者数4,684名、平均標準報酬月額311,462円、賞与総額2,336百万円、保険料収入は1,798百万円の予算でしたが、令和4年度予算は被保険者数の増加等を見込んで編成しました。



令和4年度予算概要

〈一般勘定〉

●収入 (千円)

科目	本年度予算額	前年度予算額	増減
健康保険収入	2,074,380	1,799,286	275,094
{ 保険料	2,073,676	1,798,695	274,981
{ 国庫負担金収入・他	704	591	113
繰越金	1,392,095	1,185,472	206,623
調整保険料	32,489	27,204	5,285
国庫補助金収入	302	302	0
財政調整事業交付金	5,000	10,000	-5,000
雑収入	618	723	-105
合計	3,504,884	3,022,987	481,897

●支出 (千円)

科目	本年度予算額	前年度予算額	増減
事務費	53,195	47,888	5,307
保険給付費	1,091,671	910,938	180,733
{ 法定給付費	1,070,114	892,060	178,054
{ 付加給付費	21,557	18,878	2,679
納付金	923,969	714,701	209,268
{ 前期高齢者納付金	441,257	276,934	164,323
{ 後期高齢者支援金	482,699	437,753	44,946
{ 病床転換支援金	2	2	0
{ 退職者給付拠出金	11	12	-1
保健事業費	97,813	98,586	-773
還付金	105	105	0
宮繕費	2,000	1,300	700
財政調整事業拠出金	32,489	27,204	5,285
連合会費	1,273	1,145	128
雑支出	200	200	0
予備費	1,302,169	1,220,920	81,249
合計	3,504,884	3,022,987	481,897

〈介護勘定〉

●収入 (千円)

科目	本年度予算額	前年度予算額	増減
介護保険収入	94,395	94,488	-93
繰越金	521	4,986	-4,465
繰入金	400	500	-100
雑収入	4	4	0
合計	95,320	99,978	-4,658

●支出 (千円)

科目	本年度予算額	前年度予算額	増減
介護納付金	89,931	95,735	-5,804
還付金	10	10	0
積立金	0	0	0
雑支出	1	2	-1
予備費	5,378	4,231	1,147
合計	95,320	99,978	-4,658

資産と支払余裕金の推移

・令和4年度の基礎数値は被保険者数の増加を見込んで5、615名、平均標準報酬月額299、768円、賞与総額2、614百万円で、保険料収入は2、073百万円を見込んでいます。前年度繰越金1、392百万円を見込んで、収入合計3、504百万円です。

・支出は保険給付費1、091百万円、納付金923百万円、保健事業費97百万円、事務所費53百万円などで、不足分を補うための予備費として1、302百万円を計上しています。

・経常収入支出差引額はマイナス93百万円です。

・健康保険組合の資産は法定準備金、任意積立金、支払余裕金の形で保有しています。令和2年度決算時点では、法定準備金200百万円、任意積立金22

介護保険

・令和3年度着地は収入合計が予算99、978千円より3、722千円少ない96、256千円、支出合計が95、735千円となり、この残金全額521千円を令和4年度へ繰り越す予定です。

・令和3年度決算時点では法定準備金・任意積立金は変わらぬまま、支払余裕金1、392百万円で、合計1、816百万円の見込みです。

・令和4年度の決算見込では法定準備金・任意積立金(同額)に加え支払余裕金1、302百万円で、合計1、726百万円の見込みです。経常支出合計2、168百万円の約9・5ヶ月分の資産を保有できる見込みです。

・令和3年度着地は収入合計が予算99、978千円より3、722千円少ない96、256千円、支出合計が95、735千円となり、この残金全額521千円を令和4年度へ繰り越す予定です。

・当健保組合の令和4年度保険料率は令和3年度と同じ料率1・74%とし、収入は介護保険収入94、395千円、繰越金521千円、準備金からの繰入金400千円等で合計95、320千円を見込んでいます。支出は介護納付金への支出89、931千円、予備費5、378千円で収入と同額を見込んでいます。令和5年度へ5、378千円を繰り越す予定です。

・当健保組合は、今後も医療費削減のために、ジェネリック医薬品の使用促進、医療費通知の実施、レセプト点検、被扶養者資格確認、柔道整復療養費適正化およびレセプト情報や特定健診・特定保健指導の結果に基づき疾病予防・早期発見・早期治療への取り組み等を推進していきます。また事務やシステムの合理化をすすめる経費削減に努めてまいります。限りある保険料収入を効率的に活用して、みなさまの健康と安心を支えてまいります。